2025 年度 日本臨床検査医学会 第 2 回理事会（理事総会）議事録

日時：2025 年 7 月 19 日（土）13：00～16：00
開催方法：現地と Web（Zoom）のハイブリッド開催
議事録署名人：大西宏明理事長、柳原克紀副理事長、諏訪部章、山田俊幸 各監事
出席（事務所）：大西宏明理事長、吉田博会計理事、森兼啓太総務理事、堀田多恵子、松下弘道 各理事
出席（Web）：柳原克紀副理事長、増田亜希子、井上克枝、下澤達雄、山﨑正晴 各理事
志村浩己、中山智祥、伊藤弘康、橋口照人 各支部理事
諏訪部章、山田俊幸 各監事（以上 16 名）
連絡委員：山田俊幸 日本臨床検査専門医会：理事長、植田成 日本臨床検査標準協議会：事務局長、
柳原克紀 日本医療検査科学会：監事、村上正巳 日本臨床検査振興協議会：理事長
宮地勇人 日本臨床検査同学院：理事長（以上 5 名）
欠席：松下一之、上原　剛 各理事
髙橋 聡、長尾美紀、末廣 寛 各支部理事（以上 5 名）

冒頭、2025 年 6 月 27 日に逝去された名誉会員の河合忠先生（93 歳：自治医科大学名誉教授）を悼み黙祷が捧げられた。

Ⅰ　開会、理事長挨拶（大西宏明 理事長）

冒頭、挨拶があり、過半数の理事が出席していること、議事録署名人の確認し開催要件を満たしていることが告げられ理事会（理事総会）を開始した。

１．関連団体報告（大西宏明 理事長）

1）日本臨床検査専門医会報告（山田俊幸 日本臨床検査専門医会 理事長）

2024 年度事業報告として会議、年次大会、セミナー、その他活動等、2025 年度事業計画として理事会、総会、3 月 23～24 日に札幌で開催された第 4 回年次大会、7 月に臨床検査振興セミナー、11 月に全国検査と健康展、臨時社員総会、講演会等を予定していることが報告された。

2）日本臨床検査標準協議会（植田成 日本臨床検査標準協議会 事務局長）

2024 年活動報告として、12 月に JCCLS シンポジウム実施したこと、臨床化学項目と新たに血算項目を加え、第 3 回小規模検査施設の外部精度管理調査を実施したこと、ISO/TC212（臨床検査と体外診断用検査システム専門委員会）WG-4（微生物検査と分子診断）、ISO21474-3「核酸に対する多項目分子学的検査第三部-解釈と報告」の活動報告、多項目実用参照物質次ロット候補品の製造についてが報告された。
2025 年度活動報告・予定として、用語委員会、血液検査標準化委員会ワーキンググループの専門委員会を再開したこと、多項目実用参照物質次ロット候補品の値付け、頒布参加施設を募り合同実験を実施したこと、9 月 19 日（金）に JCCLS シンポジウムを開催予定であること、役員改選があり高木康代表理事が再選されたこと等が報告された。

3）日本医療検査科学会（髙橋聡 日本医療検査科学会 理事長）

各種会議予定（理事会、委員会、社員総会、総会）、2025 年 4 月 20 日（日）に第 39 回春季セミナー（石山雅大例会長：弘前大）を弘前市民文化交流館で開催したこと、2025 年 10 月 3 日（金）～5 日（日）に第 57 回大会（同時開催：展示会 JACLaS EXPO 2025）（中山智祥会長：日本大）をパシフィコ横浜で開催予定であること、各種委員会活動、医療検査と自動化（日本医療検査科学会誌 50 巻 1～5 号）、補冊（科学技術委員会）3 巻を発行予定であること等が報告された。

4）日本臨床検査振興協議会（村上正巳 臨床検査振興協議会 理事長）

2022 年 4 月の一般社団法人化後、2025 年 3 月末で一般社団法人として 3 年目であること、2025 年 6 月 11 日に

開催された 2025 年度定時社員総会及び 6 月 18 日に開催された 2025 年度第 1 回理事会で 2025 年度理事・監事の選定ならびに理事長・副理事長の選定を行い、村上正巳先生が理事長として重任となったこと、委員会・小委員会について従来の体制を維持し活動推進すること、主な委員会活動として、診療報酬改定小委員会は 7 月に保険局 医療課並びに医政局 医薬産業振興・医療情報企画課に要望書を提出予定であること、在宅医療における臨床検査小委員会は厚労科研「在宅医療における検体検査の質の確保に資するための研究」の結果に基づいて協議・策定予定であること、広報委員会は 2025 年 8 月 6～7 日に開催される「霞が関子供見学デー」の協賛・体験展示の準備を進めていること、LDT に関するワーキンググループ：LDT の臨床実装を目指し活動中であることが報告された。

5）日本臨床検査同学院（宮地勇人 日本臨床検査同学院 理事長）

2024 年度の一級臨床検査士資格認定試験、二級・緊急臨床検査士資格認定試験、遺伝子分析科学認定士資格認定試験、POCT 測定認定士資格認定試験の結果、また、2025 年度の同内容の予定、第 40 回「緒方富雄賞」として西岡光昭氏（山口大）、雨宮健司氏（山梨県立中央病院）、齋藤良一氏（東京科学大）が受賞したこと、現在は、第 41 回「緒方富雄賞」の推薦受付、審査を予定していること、第 72 回日本臨床検査医学会学術集会で共催シンポジウムとして「AI 時代を乗り切る人材育成」を企画していること、また、二級・緊急臨床検査士資格認定の実施状況が報告された。

ここで関連団体代表の先生方にはご退室いただいた。

２．支部報告

各支部報告の 2025～2026 年度の支部例会･総会の開催報告と予定､支部所属の人事変更等について報告された。

３．各種委員会報告

1）編集委員会（吉田博 担当理事、下澤達雄 委員長）

2024 年度会誌 1-12 号に掲載された原著論文を対象として審査し一位の石嶺南生先生（信州大）を優秀論文賞候補者と選定し学会賞委員会に報告したこと、日本臨床検査医学会誌について、2026 年 1 月より奇数月発行にて隔月化を開始予定であること、LMI の進捗状況、採択率等情報のホームページへの公開を検討予定であること、COI 管理ガイドライン改正案に合わせ 2026 年から国内誌は「アクセプト後に COI 報告書を提出する。」と規定変更予定であること、LMI の学術著作権協会への転載許諾委託に関わる AI 利用は現状見送ること、投稿論文審査は AE による査読者候補選定方式に変更すること、国内誌および LMI 投稿原稿審査状況が報告された。

2）臨床検査室医療評価委員会（松下弘道 委員長）

「COVID-19 パンデミックと臨床検査体制」アンケート調査について英文誌への投稿を準備していること、「ポストパンデミックの臨床検査体制」アンケート調査について日本臨床検査医学会誌に投稿中であること、「臨床検査室の取り組みと課題に関する全国実態調査 2025―タスク・シフト/シェア、認定・認証、医療 DX の現状を探る―」に関するアンケート調査を行う予定であることが報告された。

3）専門医制度委員会報告（松下弘道 委員長）

日本専門医機構認定臨床検査専門医 更新基準改訂（診療実績の免除の廃止）の対応として代替となる試験を実施するとしたこと、「名誉臨床検査専門医認定制度規定」を変更した（日本専門医機構に確認中）こと、アメリカ AP/CP 資格保持者の専攻医研修要件の免除について検討したことが報告された。

4）日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会報告（松下弘道 委員長）

2025 年度実施第 5 回日本専門医機構認定臨床検査専門医受験を希望する 3 年以上の専門研修を終了した 16 名の専門研修修了書類を審査し、全員の専門研修修了を確認して承認したこと、2026 年度基幹施設の研修プログラム（更新申請 4 施設、新規申請 3 施設、変更申請 22 施設、廃止申請 1 施設）の一次審査認定を行い、日本専門医機構に二次審査依頼をしたことが報告された。

5）日本医療安全調査機構医療事故調査・支援センター パニック値に関する提言：当学会に対しての提案（大西宏明 理事長）

当学会へパニック値の見落としをなくすため、一目でパニック値がわかるような措置の検討の要望があった。ただ、学会単体では難しいため、他団体、関連団体、企業と連携して検討していきたいとして、当学会としては関係する委員会としてチーム医療委員会、医療安全委員会などに検討依頼がなされ、チーム医療委員会からは、医療情報のことであるため病院が決めることであり企業などに意見を伝えていくべきとなり、検討することとなった。

４．第 72 回学術集会報告（千葉 2025/8/28(木)～8/31（日）、大西宏明 会長）

2025 年 8 月 28 日（木）～31 日（日）、千葉県幕張メッセにおいて、大西宏明会長（杏林大）のもと、テーマ：楽しく学ぶ臨床検査として開催予定であり、安戸裕貴副大会長、宮城博幸事務局長、運営事務局は（株）サンプラネットメディカルコンベンションが担当する。現地開催で参加登録中であること、市民公開講座として「将棋 AI と将棋：エンジニア・棋士の視点とみらいへの展望」を開催予定であること等が報告された。なお、8 月 28 日（木）17：30～18：30 に理事・監事意見交換会を開催することがあらためて周知された。

５．第 73 回学術集会報告（千葉 2026/12/17(木)～12/20(日)、吉田博 会長）

2026 年 12 月 17 日（木）～20 日（日）、千葉県幕張メッセにおいて、吉田博会長（慈恵医大）のもと、テーマ：プラネタリーヘルスへと進む新時代の医療～プラットフォームを担う臨床検査医学～として、現地および Web オンデマンドでの開催予定であり、越智小枝副大会長、政木隆博事務局長、運営事務局は（株）サンプラネットメディカルコンベンションが担当する。シンポジウム、委員会企画、POC セミナー、Catch up セミナー、RCPC 特別講演、教育講演、会長講演、医学会連合加盟学会連携フォーラム、ICD 講習会、共催セミナー（ランチョンセミナー、コーヒーブレイクセミナー）、そして、一般演題（口演・ポスター）は 2026 年 5 月～7 月に登録実施予定であることが報告された。

６．第 74 回学術集会報告（宇都宮 2027/11/11(木)～11814(日)、森兼啓太 会長）

2027 年 11 月 11 日（木）～14 日（日）、ライブキューブ宇都宮において、森兼啓太会長（山形大）のもと、開催予定であり運営事務局は（株）サンプラネットメディカルコンベンションが担当することが報告された。

７．本学会からの関連団体派遣委員について（更新）（森兼啓太 総務理事）

2025/3/29 以降に推薦した関連学会、団体への派遣委員が報告された。

８．認定試験について（大西宏明 理事長）

1）第 5 回機構専門医・第 42 回臨床検査専門医認定試験（東京 2025/8/3(日)、佐藤雅哉 実行委員長）

2025 年 8 月 3 日（日）に、東京大学医学部附属病院にて実施予定であり学会初回受験者 1 名、機構専門医受験者 16 名、合計 17 名受験予定であることが報告された。

2）第 17 回臨床検査管理医講習・認定試験（東京 2025/9/23（火：祝日）、金子誠 実行委員長）

2025 年 9 月 23 日（火：祝日）に、三井記念病院にて実施予定であり 33 名が受験予定であることが報告された。

９．日本血栓止血学会認定技師制度について（大西宏明 理事長、橋口照人：日本血栓止血学会認定医制度委員会委員長）

日本血栓止血学会として、専門的な知識と技術を有し、血栓止血異常症の診療に貢献できる検査技師の養成に繋がるとともに、病院内での検査技師の立場を高めることを目的とし認定技師制度設置の報告、協力依頼があり、当学会として認定制度を支援し将来的に協力関係を構築する旨、回答したことが報告された。

10. その他

・支部関連事項について（大西宏明 理事長、森兼啓太 総務理事）

1）支部に配布している支部総会、例会で参加登録の際に使用する PC とバーコードリーダーについて、2019 年度第 1 回理事会の方針に従い、ネット接続をせずに参加登録するのみであれば、サポートが切れても問題はなく、継続使用いただく。しかし、新しい PC が必要という場合は、購入代金等は支部負担とすることが周知された。
2）役員選挙に伴う 2026・2027 年度支部理事の推薦については、今年の 11-12 月に支部に推薦依頼予定のため、各支部での検討依頼がなされた。
3）今年実施される 2026・2027 年度理事、2026・2027・2028・2029 年度監事選挙について、立候補者の確認および投票は会員マイページの投票機能を利用し実施することが報告された。

Ⅲ　審議事項

１．第 71 回学術集会会計報告報告（大阪 2024/11/28(木)～12/1（日））（吉田　博 会計理事）

2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）にグランキューブ大阪で日野雅之会長（大阪公立大学）のもと開催された第 71 回学術集会より会計報告がなされ、常任理事、監事が事前に確認したうえで吉田博会計理事より報告され、承認された。

第 71 回学術集会では 360 万円程の余剰金があり当学会へ送金される。アジア交流基金について残高が 20 万円程になったため、取り決めに従い 50 万円程度を余剰金から補填することが提案され承認された。

２．定時社員総会での審議事項前の理事会開催時期について（大西宏明 理事長）

社員総会の決議事項については理事会で承認されたものを社員総会資料として配布すべきで、社員総会と同日の理事会で審議するのは問題があるとの増田亜希子理事からの次項の指摘について、古川俊治弁護士顧問に確認した。
一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 38 条では、社員総会の目的である事項は理事会の決議によらなければならないとしており、同 39 条は、社員総会の日の 1 週間（書面による議決権行使を依頼する場合には 2 週間前）までに、上記事項を記した招集通知を発しなければならないとしている。したがって「定時社員総会の決議事項については、理事会で承認されたものを送付すべきではないか、同日に理事会と定時社員総会を開催するというのは、社団法人法上、問題があるのではないか」との増田理事からのご指摘について、古川弁護士が確認し、その通りとの回答であった。
そのため、社員総会の決議事項は同日の理事会ではなく、一般社団法人に関する法律で規定されている日数を開けて開催することとしたい。と説明と提案があり、承認された。

３．Web を利用した社員総会資料掲載、出欠・議決権行使・委任の回答方法について（大西宏明 理事長）

事務的なこと、通信費節約ということから電磁的方法により社員総会の招集通知の送付、議事・資料の提供、出欠、議決権行使、委任状提出を実施する提案がなされ、承認された。
しかし、そうすると、理事会と社員総会の間隔を 3 週間あけなければならないという規定があると増田理事から意見があり、会計決算報告のまとめから会計監査までの日程がどうしても 3 月 7 日頃まではかかってくるため、スケジュール等を熟考することとなった。

４．定款の一部改定について（大西宏明 理事長、増田亜希子会則改定委員会担当理事）

電磁的方法により社員総会の招集通知の送付、議事・資料の提供、出欠、議決権行使、委任状提出を実施するための改定案が提示され承認された。

５．細則の一部改定について（大西宏明 理事長）

同学院の試験について、当学会細則「臨床検査士資格認定制度運用規則」に記載があり、細則第 4 条で、「当法人は（中略）臨床検査士資格認定試験を実施する。」と規定されている。当学会が現在実際に行っている業務は試験のサポートと共同での認定が主であるため、実状に合う形になるよう「臨床検査士資格認定制度運用規則」を修

正する提案があったが、同学院に確認の必要があるとの意見が諏訪部監事からあり、継続審議することとなった。

６．遺伝子関連検査精度管理医制度について（大西宏明 理事長、松下弘道 遺伝子検査認定医・専門医に関するアドホック委員会 担当理事、吉田　博 会計理事）

発足、認定制度の開始、規程、費用の承認。

以前より議論されていた遺伝子関連検査精度管理医制度について、対象者は日本専門医機構認定臨床検査専門医とし、更新時までに指定されている e-learning を必要数受講したうえで申請することになり、本理事会での承認後に発足し e-learning をリリースして開始することが諮られ、承認された。

ただ、森兼啓太理事より、日本臨床検査医学会臨床検査専門医から日本専門医機構認定臨床検査専門医への移行更新者については、対象者とならないのかという意見があり、現時点の規程上は対象にはならないが、どのように扱う確認遺伝子関連検査認定医・専門医ワーキンググループで確認することとなった。

７．タスクシフト・シェアについて（大西宏明 理事長）

日本学術会議内部委員会で、臨床検査、病理、放射線の 3 職種における共通課題を議論している。タスクシフト・シェアの進捗具合について、病理、放射線は運用におけるガイドラインの整備が関連学会と団体で作成されているが、臨床検査は特段の動きがなかったため、関連学会および団体と共同でガイドライン等の整備を進めるべきであることが報告され、承認された。

８．日本消化管学会 胃腸科専門医制度 基本領域学会に関する要望について（大西宏明 理事長、専門医制度委員会 吉田博 担当理事、松下弘道 委員長）

当学会を日本消化管学会「胃腸科専門医制度」における胃腸科専門医の申請資格として定める基本領域学会とする要望があり、専門医制度委員会で検討し認めることで問題ないと答申があったことが報告され、本件については認めることで承認された。

９．全国検査部長・技師長会議について（大西宏明 理事長）

学術集会前日に、全国検査部長・技師長会議が開催されているが、主催団体が明確ではなく学術集会や当学会が主となっているわけでもないためどのようにしていくのがよいか検討依頼がなされた。一般病院としてはまとまった組織ではない、私立大学の前代表からは特段決まっていることはないが部長だけではなく若い方も参加できるようにしたほうがよいのではないか、第 73 回学術集会からは開催できる用意はするがもし開催しないということであれば連絡いただく、第 74 回学術集会ではもし前日のプログラムがないのであれば設営時間も変わり経費的にも節約できる等の意見があり、学術集会での全国検査部長・技師長会議の対応継続審議することとなった。

10. 特定機能病院の臨床検査科や専門医基幹プログラム設置への対応について（大西宏明 理事長）

2025 年 6 月 25 日、厚生労働省「第 26 回特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会」で、「医師派遣」や「総合診療科の設置」などを新たな承認要件とすることを求める「特定機能病院のあり方に関するとりまとめ（案）が提示され、2026 年度診療報酬改定を見据えて、2025 年中に制度改正の予定。承認要件は、医療提供、教育、研究、医師派遣、医療安全の 5 つで、新たに「医師派遣」が追加され、基本診療科の幅広い設置として、これまで標榜が求められてきた 16 診療科に加えて、「病理診断科」「臨床検査科」「総合診療科」の設置（標榜は必須でない）、およびこれら 3 つの基本領域の専門研修プログラムの基幹施設となることが求められる（経過措置あり）ことが報告された。当学会としては日本専門医機構認定臨床検査専門医であること、この機構専門医が統括責任者となり臨床検査専門研修プログラム基幹施設となることが求められるが、機構専門医不在施設、専門研修プログラム基幹施設不在県の対応については検討していくこととなった。

11. その他（大西宏明 理事長）

1）委員会の統廃合について

3 月の理事会でも議題としたが、会員の年齢構成で若手の方が減っていたり、委員長あるいは委員を複数兼ねていたり、負担がかかっていることなどの理由により委員会をもう少し減らしていきたいと考えている。3 月の理

事会の資料の委員会統廃合案を再提示して問題提起され、継続審議することとなった。

森兼啓太総務理事より、2025 年度、2026 年度の理事会と定時社員総会の予定が報告された。

【2025 年度理事会・臨時社員総会日程】

第３回理事会：11 月 1 日（土）14：00～17：00

2025 年度 臨時社員総会：11 月 24 日（月：祝日）11：00～12：00

【2026 年度 理事会・定時社員総会日程】

第 1 回理事会(現理事・監事)：3 月 14 日（土）10：45～13：00（予定）

2025 年度に係わる定時社員総会：3 月 28 日（土）14：00～15：00、15：35～15：50

Ⅵ　閉会（柳原克紀 副理事長）

柳原克紀副理事長より閉会にあたり挨拶があり本理事会は閉会された。

以上

2025 年 9 月 24 日

一般社団法人日本臨床検査医学会　理事会

理 事 長　　大 西 宏 明 印

副理事長　　柳 原 克 紀 印

監　　事　　諏 訪 部 章 印

監　　事　　山 田 俊 幸 印